

(昭和十一年) (27)

晩秋画壇の珠玉篇

来る十五日から名古屋最初の

春陽会会員小品展(名古屋新聞主催)

待望の声に迎へられて本社主催の春陽会会員小品展覧会は十五日から五日間、名古屋広小路・丸善画廊に蓋開けされる。

「由来」…春陽会会員の作品は量における大作といふよりも質における名品が多く、しかも名古屋では小杉放庵画伯の作品以外にはほとんど頒布されてゐない関係もあり、同好者、鑑賞家からも特別な興味と期待とがかけられてゐる。春陽会会員、各画伯も名古屋などで、の小品発表は最初であり、特に入念な力作ばかりを寄せたが、現代洋画壇における元老であり、かつ寡作をもつてきこえてゐる山本鼎画伯が遅れてもつとも好ましい小品四点を追加してくるなど、いよいよこの展覧会の実質は充実し蓋開けと同時に来観者が押し寄せ好評を博するものと予想される。

出品目録は次の通りである。

「日本画部」…小杉放庵《山駅》《名月》《三笑》／中川一政《荻鮭》《かはい》
《水墨山水》／石井鶴三《女給》《ちんどんや》(扇面)《兔》／木村莊八《からすうり》(扇面)《秋三果》《柿》《三番叟の一》《三番叟の二》《助六の一》
《助六の二》《くりほうずき》《枝柿》《柿栗》。

「洋画部」…山本鼎《熱海風景》他三点／足立源一郎《花》《梓川新緑》／長

谷川昇《西洋梨》／今関啓司《山村新緑一》《山村新緑二》《山村新緑三》
《早春》／小林徳三郎《花習作》／小穴隆一《人形》《習作》／水谷清《朝顔》
《薔薇》／鳥海青児《アルジェリア風景》《道化》《道化の顔》／山崎省三
《ざくろ》《花》／横堀角次郎《ボンボンダヤ》《静物》／栗田雄《窓》《静物》
／田中善之助《バラ》《朝顔》《柘榴》／若山為三《暁の三笠山A》《暁の三笠山B》
《朝の春日山》／倉田白羊《冬の崖》《溪流》《姪ヶ濱風景》／国盛義篤《松と岩》《ばら》。

〔名古屋新聞〕 昭和十一年十一月十二日